

今年度の大規模災害対策の取組み状況について

1 啓発活動について（予防対策進捗状況調査結果の公表）

進捗状況調査結果を公表することにより、各事業所の防災に係る取組状況や訓練等の実施状況、行政の取組み状況など、石油コンビナートの防災に係る基礎的な情報を発信し、県民に理解を深めてもらう。

2 避難計画の見直しについて

各市ともに、コンビナート地区を対象とした市防災計画の見直しに併せて、避難計画の見直しに向けて作業中。（概要は、各市より説明）

横浜市石油コンビナート等防災対策編及び川崎市臨海部防災対策計画

3 石油コンビナート等防災本部における訓練について

(1) 本年度の訓練実績

情報受伝達訓練（平成 28 年 10 月 26 日）

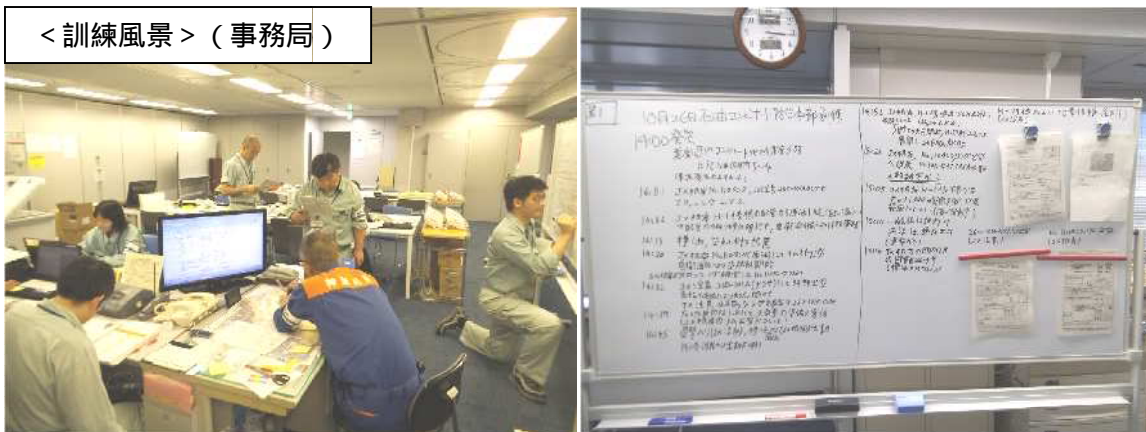
横浜市・川崎市内の特定事業所の浮き屋根式タンクからの火災及び漏洩事故を想定し、関係行政機関、特定事業所及び広域共同防災組織が連携して災害情報等を受伝達する訓練を実施した。

・参加機関：10 機関（計 50 名）

（第三管区海上保安本部、県、県警、市危機管理室、市消防局、特定事業所（JX エネルギー(株)根岸・川崎）、広域共同防災組織）

・訓練内容：共通シナリオに基づく関係機関同士の情報の受伝達

< 訓練風景 >（事務局）



事務局の情報収集訓練（平成 28 年 11 月 21 日）

関係行政機関が災害対応に人員を割かれ、防災本部において情報を得難い状況を想定し、防災本部事務局員による現地での情報収集訓練を実施した。

・参加機関：4 機関

（県、神奈川消防署、JX エネルギー(株)横浜製造所、大黒共同防災センター）

・訓練内容：JX エネルギー(株)横浜製造所で実施された油防除訓練に参加し、現地本部での情報収集、防災本部への情報伝達等を実施

(2) 訓練の成果及び今後の課題

< 成果 >

シナリオの作成段階から関係機関で協議したことで、防災本部の規程類、コンビナート災害時の基本的な流れ・関係機関の動きなどをあらためて共有することができた。

< 今後の課題 >

関係機関の担当職員のコンビナート災害への対応力をさらに向上させるため、ブラインド形式での訓練など、より実践的な訓練の実施が望まれる。

区域外へ被害が拡大した場合の対応や、市内の消防力が不足した場合の対応など、より実態に則した被害想定を検証していく必要がある。

(3) 来年度の訓練の方向性

各機関が一堂に会したブラインド型図上訓練を実施する。

シナリオは本年度のものをベースに、詳細な設定 を検討していく。

市内の被害状況・消防力、警戒区域の設定、住民避難の流れ、事業所周辺への影響、タンク内残油量等

【来年度訓練のイメージ】

